N°6
JANUARY/FEBRUARY
2024

The Sustainable Gastronomy in Society 「SGS]

Newsletter JAPAN-EUROPE FORUM

EDITORIAL

未来への展望

~The best is yet to come~

はじめに
この度の令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様と、ご家族・関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。被災地域の皆様の安全と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

この数か月において、SGSでは地域レベルでの新しいコミュニケーションのための活動を積極的に強化してまいりました。その一つとして、富山県と広島県に焦点を当てたオンラインフォーラムを開催することができました。この場をお借りして、農林水産省、県関係者、地域の皆様にご協力をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。この連携により、SGSとして地域社会とより深く関わることができたことを大変光栄に思っております。

私たちの対話と交流の場は、今年の3月で2年目を迎えます。本年は、現地開催でのフォーラムを開催するために、現在その準備を進めております。第 1 四半期に予定する次回フォーラムについて、近日中に詳細をご案内させていただけるのを楽しみにしております。

本1月号では、500名を超えるSGSニュースレターの読者の皆様に、フランスのスタートアップ・パートナーであるカーボン・マップ社と現在、共同で取り組んでいるインデックス・ソリューションについて紹介しています。
また、ネイチャーポジティブ（Nature Positive）＊に焦点を当て、成功するビジネスを創造し発展させるための分析についても掲載しています。お楽しみいただけましたら、ご感想やアイデアをお聞かせいただければ幸いです。SGSでは皆様からのフィードバックをお待ちしております。

エンゲージメント・プラットフォームフォーラム開催の報告 2-4
分析：ネットゼロを超えてネイチャーポジティブへ 5, 6
SGS アクションプランの紹介 7
INDEXパイロットプロジェクトの紹介 8

＊生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること

年次エンゲージメントプラットフォーム フォーラム

2023年11月・12月開催の報告

（ZOOMオンライン、YouTube配信）

CLUSTERS 1 & 2

富山	主な視聴者の種類: 食品産業、観光、文化、ITに関係する企業、地方自治体関係者、省庁関係者 オンライン参加:約150名 ご協力関係機関:富山県、農林水産省

広島	主な視聴者の種類: 食品産業、観光、文化に関係する企業、地方自治体関係者、省庁関係者 オンライン参加:約180名 ご協力関係機関:広島県、農林水産省

Engagement Platform協賛

GREYachting Co. Ltd.

オタフクソース株式会社

1st Cluster – 富山

2023年11月29（水）

午後1時 – 午後5時

【プログラム】

司会進行：坂口恵氏（SGS理事、米国バージニア州経済開発機構 日本代表）

▼13:00-13:15　オープニング

スピーカー：エルベ・クライ氏：SGS代表理事
ビデオメッセージ：新田八朗氏：富山県知事

（新田知事“SGSフォーラムin富山”から）

▼13:15-　基調講演１

【富山で医食同源を楽しむ】
スピーカー：鏡森定信氏：富山大学名誉教授（元富山大学医学部部長、元富山大学副学長）

▼14:10-　基調講演２

【ガストロノミーの魅力：富山の食文化の進化】
スピーカー：
- 谷口英司氏：レヴォ（L'evo）オーナーシェフ
- 田中穂積氏：ひまわり食堂オーナーシェフ
- 村健太郎氏：海老亭別館主人

▼15:20-　パネルディスカッション

【地理的表示（GI）の力：富山県の可能性】
スピーカー：
- 石橋章広氏：農林水産省北陸農政局 地方参事官
- 西塚信司氏：特産氷見稲積梅生産組合組合長
- 藤井 敏一氏：富山干柿出荷組合連合会会長

（“SGSフォーラムin富山”の資料から）

▼16:20-16:30　クロージング

スピーカー：SGS理事

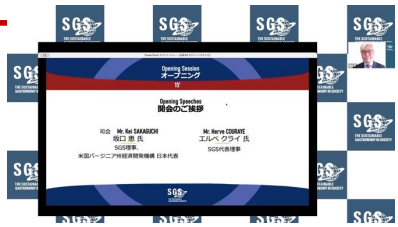
2nd Cluster – 広島

2023年12月19（火）

午後1時 – 午後5時

【プログラム】

司会進行：坂口恵氏（SGS理事、米国バージニア州経済開発機構 日本代表）



“SGSフォーラムin広島”から）

▼13:00-13:15　オープニング

スピーカー：エルベ・クライ氏：SGS代表理事

▼13:20-　基調講演１

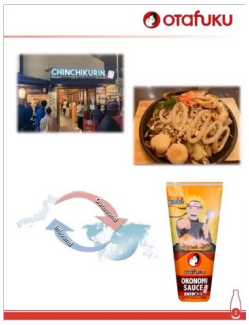
【広島県のサステナブルガストロノミーとフードシステム：メリットと未来の展望 】
スピーカー：　新谷真寿美氏：クニヒロ株式会社代表取締役社長

▼14:00-　基調講演２

【地理的表示(GI)の力:広島県の可能性】
スピーカー：
- 大澤誠氏：SGS顧問、農林中央金庫エグゼクティブアドバイザー
- 古賀徹氏：農林水産省中国四国農政局次長
- 宇田久康氏：広島県農林水産局畜産課参事
- 藤永信峰氏：庄原市企画振興部農業振興課係長

▼15:40-　パネルディスカッション

【持続可能な食文化と地域振興】
スピーカー：
- 山邊昌太郎氏：一般社団法人広島県観光連盟チーフプロデューサー
- 宮田裕也氏：オタフクソース株式会社執行役員、国際事業本部 本部長



“SGSフォーラムin広島”の資料から）

▼16:55-17:00　クロージング

スピーカー：SGS理事

THE ANALYSIS

“ネットゼロを超えて、ネイチャーポジティブへ”

SGS’ team

Credit: UN Climate Change - Kiara Worth

2023年12月にアラブ首長国連邦（UAE）で開催された国連気候変動会議（COP28）は、自然がCOPの議題の中心でもあることを示すシグナルを発して閉幕しました。具体的な焦点は、ネイチャーポジティブな都市の創造、海洋および生態系の保護と修復にあります。喜ばしいことに、これは2022年12月に採択された昆明・モントリオール生物多様性枠組（Kunming-Montreal Global Biodiversity Framework /GBF）をサポートしています。このGBFは195か国によって採択され、淡水やその他の生態系の保護、企業による生物多様性への影響の開示などを含む23の目標を設定しました。
私たちが達成しようとする目標において企業などの民間セクターの役割が非常に重要であることが明確です。これは、組織の行動や自然への影響の総体が、2030 年までに世界的な生物多様性の減少を逆転させる方向に貢献するよう、ネイチャーポジティブになるための取り組みを意味します。

新年の初めに、東京の街や神社、大切に守られてきた千年の歴史を持つ寺院の庭園、そして額縁に収められた壮大な自然を探索する中で、私たちは日本の回復力と自然への関係が重要な役割を果たすと信じています。人間と自然との関係が文化的にどのように表現され、物質文化や自然の管理を通じてどのように表現されるかを考慮することが重要になってくるのではないでしょうか。

生物多様性によって生み出される経済的価値は、年間150兆ドル以上であり、世界のGDPのほぼ2倍に相当します。しかし、国の生態系は単に私たちの経済的繁栄を支えるだけではなく、私たちが飲む水、食べる食物、呼吸する空気、そして人類の発展に必要な安定した気候を提供しています。

興味深いことに、ネイチャーポジティブへの動きは、単に自然に大きな影響を与えるだけでなく、自然に大きく依存する産業にも、自然への積極的な取り組みが迫られています。これらの産業には、農業、エネルギー、森林、食品と漁業、製造、小売り、製薬などが含まれます。だからこそ私たちは、自然と調和し、人々の豊かな体験、「いのちの輝き」あふれる未来を創造するために、サステナビリティへの意欲を高めていきたいと考えています。先日、ある会合において新浪剛史社長（サントリーHD）が「自然と水の恵みに生かされる企業として、私たちはその分野のリーダーでなければならない」とおっしゃいました。
この発言は、力強い目標を提唱し、ネイチャーポジティブの様々な利点を明確にし、各界のリーダーたちに行動の際に有益なビジネスケースを提示する際のヒントになると考えています。

Point I -
ネイチャーポジティブは強靭なビジネスにおける中核に

自然のために行動することは、企業が直面するリスクを低減します。

第一に、企業が依存する自然の資源や資産を入手できなくなるリスクを低減します。例えば、肥沃でない土壌は低い収量をもたらし、これはビジネスリスクになってきます。次に、企業とステークホルダーとの不一致のリスクを低減します。富山でのSGSのフォーラムでは、製薬会社が自然環境へのストレスを軽減する方法で化合物を調達しながら、医薬品や化合物を作成するために自然の多様性に依存していることに気づきました。

したがって、企業が自然のリスクと依存関係を評価すれば、自然がビジネスにどのように寄与するかをよりよく理解し、自社の運営に不可欠な資源を保護するための立場を確立できます。私たちは、この自然とビジネスの双方に利益をもたらす考え方を支持しています。自然を保護することでビジネスをより強靭にし、お客様が信頼する製品の製造と提供に必要な原材料の継続的な供給を確保することにつながります。このように私たちSGSは、自然とビジネスが双方に利益をもたらす関係を信じています。

Point II -
自然に焦点を当てたビジネスケース

ネイチャーポジティブなアプローチは、ESG（環境、社会、ガバナンス）に成長の機会として実質的な付加価値を提供できます。なぜなら、2025年までに世界の資本市場でESG関連の資産が増加すると予測されており、持続可能なリンクした融資やファイナンシングが世界のGDPを押し上げ、新しい雇用を生み出すことが期待されているからです。

また、ネイチャーポジティブは需要側の機会を生み出すことができます。自然への意識が高まる中、より多くの人々、顧客がネイチャーポジティブな製品やサービスにプレミアムを支払う可能性があります。B2Cでは、気候に優しいとされる消費財企業や製品を好む顧客がいおり、また一方では、自然の保護にいち早く取り組んだ企業にも同様の利点が期待されます（ヨーロッパからの洞察）。
ネイチャーポジティブは雇用主（企業）のブランドを向上させることも期待できます。なぜならば、ネット・ゼロ戦略を持つ企業や、気候変動への取り組みや促進に積極的な企業は、才能を引きつけ、新たな人材の獲得や維持に成功しているからです。

生物多様性分野では大きなスキルギャップが存在します。以前のニュースレターで紹介したAXAクライメートスクールでも示されているように、自然に関する肯定的な評判を確立するために早期に行動した企業は、熟練した自然の専門家チームを採用および育成を目指す人材市場において、優位な立場を築くことができるでしょう。

SGS
アクションプランのご紹介

ネイチャー・ポジティブに具現化された行動への呼びかけに応えるため、私たちSGSは、これに向けた明確な取り組みを確立したいと考えています。ネットゼロは気候変動に対処するための目標となってきましたが、企業はネイチャー・ポジティブな目標を達成するために、同様の明確さと行動の焦点が必要になってきます。興味深いことに、私たちが日本でインタビューしたリーダーの方々は、ネイチャー・ポジティブの目標を支持していますが、そのイニシアティブの成熟度はそれぞれ異なり、また対応の仕方も異なっています。例えば、基準の定義に積極的に関与しようとしている姿勢や、他の組織との合意形成を待っているといった姿勢が見られます。

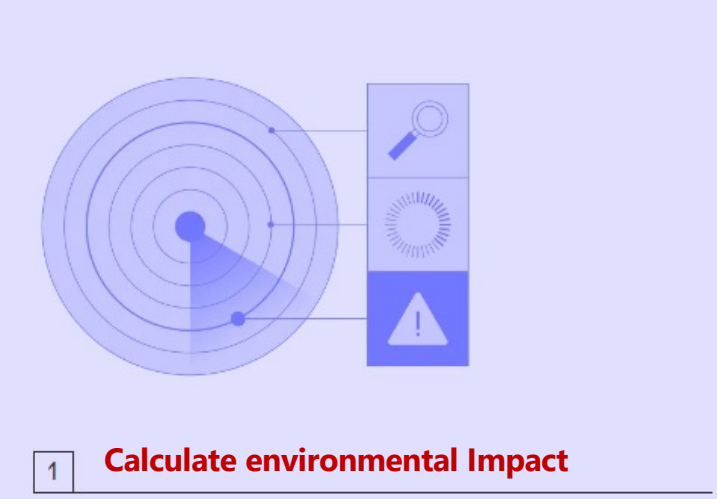
しかし、自然は気候変動とは異なりより複雑です。企業が行動を起こす際に、それが自然の具体的な側面に資する意味のある行動を確実にとるためには、この複雑性が必要になってきます。自然の様々な要素や自然生態系の多様性、そしてこれらの生態系が経済活動に様々なかたちで絡み合っているため、それが企業にとって何を意味するかを定義するのが難しい状況をつくり出しています。

このような状況を踏まえ、SGSはパートナーであるCarbonMaps（カーボンマップス）による、企業が自然に与える影響を評価するための有益なフレームワークを紹介します。このフレームワークは温室効果ガス排出量、水資源、土地、水の使用量、大気汚染、動物福祉などの主要指標に関する多様なデータを集約することにより、企業が自然界に及ぼすさまざまな影響を評価するための有益な枠組みを提供しています。科学的モデルに基づいたシンプルで監査可能な会計指標を提供し、製品レベルの環境フットプリント＊を包括的に理解できるようにするものです。

＊人間の消費活動が環境に対してどれくらいの負荷をかけているのか調べ、一定の算定基準で数値化する評価

Point I –

サプライチェーン内のホットスポットを特定し、企業の環境フットプリントを改善し、それを持続可能性の目標を推進するために活用します。

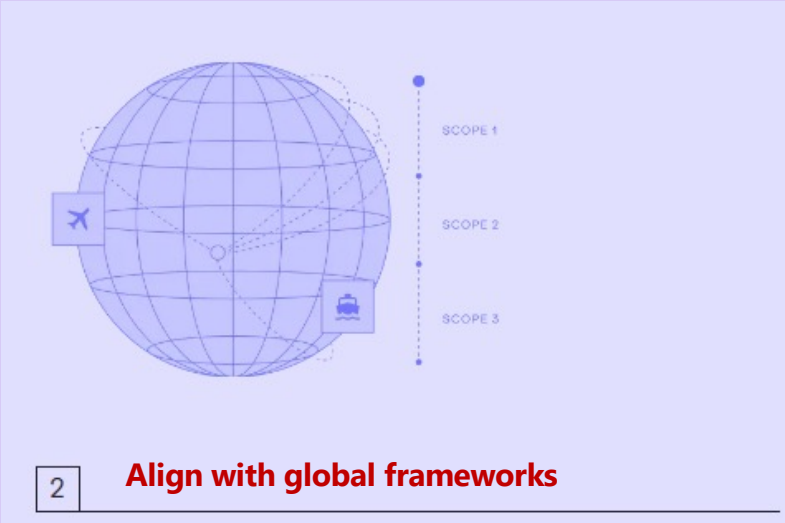


（CarbonMapsのホームページから引用）

INDEX パイロットプロジェクトのご紹介

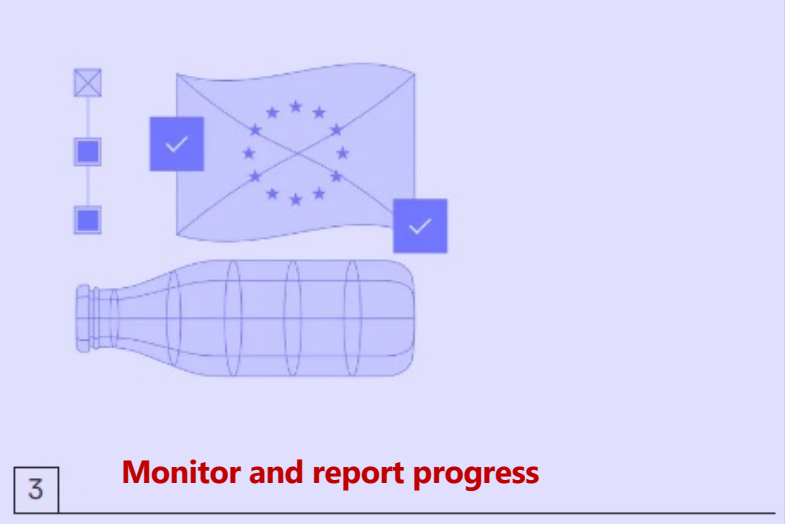
Point II -

一貫性、比較可能性、透明性を提供する環境会計を活用し、業界のベンチマークとして位置づけます。



Point III -

科学的に裏付けられた監査可能なデータを利用して、将来の規制変更からビジネスを守る強固な基盤を確立します。



（CarbonMapsのホームページから引用）